

# 魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:伊藤二三郎

所属:三重県四日市市立保々小学校

記録日:2016年2月23日

キーワード: 「ダウン症」 「社会生活」 「交流学級でのスピーチ活動」「登下校の自立」

## 【対象児の情報】

・学年 小学4年

・障害名 ダウン症候群

・障害と困難の内容

- ・構音に課題があるため、話したいことが伝わらず、自信が持てないことがある。  
話題が限られていることも多い。
- ・伝えたいことを書くときに、表記が正確でないことがある。
- ・登下校の安全歩行が十分でないため、登下校には通学路の全部で見守りが必要である。

## 【活動目的】

・当初のねらい

- ・自分の思いや伝えたいことを増やし、それを伝えることができる。
- ・1人で登下校できる距離を伸ばし、自信を持つことができる。

・実施期間

- ・2015年4月～2016年3月

・実施者 伊藤二三郎

・実施者と対象児の関係 担任

## 【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・構音に課題があるため、話したいことが十分に相手に伝わらないことがある。
- ・支援者には自分のことを話そうとするが、交流クラスの友だちに自分から話しかけることは少ない。たくさんの人の前で話すことに抵抗がある。
- ・安全に通行するスキルが充分でなく、登下校は見守りが必要である。
- ・自分の伝えたいことを書くときに、表記が正確でないことがある。文字を飛ばしたり、逆になったりすることがある。

・活動の具体的内容

① 「伝える」を支援するために

- ・伝えたいことを“広げる” 「Safari」「メール」「カメラ」
- ・伝えたいことを“まとめる” 「カメラ絵日記」「パワーポイント」等
- ・成功体験を重ねる。

○友だちに知らせたいことを見つけ、支援学級や交流学級で発表するために、「Safari」や「パワーポイント」などを使って調べ、まとめる。

○発表するために、正確な文章を書くことができるようにする。また、大きな声でゆっくりと読めるように練習す

る。

○実際に「パワーポイント」などを使って、支援学級や交流学級で発表する。

○支援学級や交流学級での上記の活動などを通して、「伝わる」ことを実感することができ、それにより自信を持つことができる。

○支援学級における国語の授業での取り組みで、文章表記を正確に書く、書いたものを正しく読む練習を行う。

② 「自分でできる」を支援するために

・どうしたら安全に登下校できるかを知る。「画像」「登下校マップ」

・実際に安全に踏切や横断歩道の安全な渡り方を練習する。

・1人で通学できるという「自信」を持つ。

○タブレットを持って下校し、交差点や踏切、工事現場などの注意が必要な個所の写真を自分で撮る。それを元に通学路マップを作成し、実際にどのように安全確認をしたらよいかを考える。

○実際に安全な渡り方を練習することによって自信を持つ。

○保護者の了解のもと、1人で通学する距離を延ばす。

## ・対象児の事後の変化

①を通じての対象児の変化

### 「ぼくのすきなこと」の発表

「ぼくのすきなこと」(発表の題名)を準備するにあたり、Aさんと相談し、一番好きなアニメのことをテーマにすることにした。

「Safari」を使って好きなアニメの画像を選ぶときは、大変うれしそうに自分でiPadを操作して選ぶことができた。そして「パワーポイント」を使い、合計8枚のスライドを作ることができた。発表の練習では、「ぼくはワンピースが好きです。」や「エースがすきです。」を読むときは、自分で入力した文章であるのに、「が」が抜けることが多かった。また、iPadをのぞき込むようにしながら一字一字拾い読みをし、自信のなさそうな小さな声であった。

しかし、iPadやプロジェクターというサポートがあったため、発表当日は、恥ずかしがることも、うつむき加減になる事もなく、両手を後ろに組み胸を張ってしっかりと交流学級で発表することができた。Aさんの声は、あまり大きな声ではなかったが、交流学級の子どもたちはプロジェクターで写された画面を見ながらしっかりとAさんの話を聞くことができた。



### 【発表についての交流学級の子どもたちの感想】

・「Aさんははずかしがりやだけど、今日前で発表していたから、すごいなと思いました。ぼくは、前で発表するのがにがてだから、Aさんはすごいなと思いました。」

・「しんげきの巨人が好きなのがわかったよ。1人でゆえてすごかったです。またききたいです。」

・「Aさんのすきなことはいろいろあったので、いいなと思いました。それに声も大きくてとてもわかりやすかったです。」

・「すきなものが全部教えてもらってよかった。2・3学期も楽しみにしています。」

・「ちゃんとせいっぱい声が出ていて、よく聞こえました。がんばった



ね！！」

- ・「こえは小さかったけど、よくがんばったと思います。Aくん「たけのこ」(支援学級名)でもがんばってね。」
- ・「今まで知らなかったことがわかりました。Aさんがいっしょうけんめいがんばって練習していたんだなあと思いました。」

### ・夏休みの作品・夏休みの絵日記の紹介

夏休みに「カメラ絵日記」を使って何枚か日記を書くという宿題に取り組んだ。この課題にAさんは保護者の協力のもと、楽しみながら取り組むことができた。そして、10枚近い絵日記を完成させることができた。



内容には、「いとこと遊んだこと」や「流しそうめんをしたこと」などの楽しい夏休みの思い出であったり、夏休みになってから、「1人で近くのスーパーに買い物に行けるようになったこと」を知らせるものであったりした。

これらの日記を交流学級の朝の会で紹介する機会を作った。プリントアウトした日記をみんなの前で見せながら、書いた文章を読むことができた。

それ以外にも交流学級での活動として、夏休み中に作った作品の紹介を前に出て紹介する時間があった。この活動にAさんも参加することにした。この発表の時は、iPadなどの情報機器は使用せず、発表内容をノートにまとめたものを読むことにした。情報機器がなくても、友だちの前で大きな声で発表することができた。

これは、それまでに何回もクラスの友だちの前で発表するという経験をするのができ、そのたびに大きな拍手をもらったり、「Aさんががんばったね」という称賛の声かけをたくさんもらったりすることができたからである。このため、特に恥ずかしがることもなく、ノートに書いた原稿を読みながら、「タイルの額」を作ったときに、楽しかったことや難しかったところを話すことができた。

本年度の取り組みを通して、交流学級の友だちの前で話す機会が格段に増えたといえる。また、毎朝交流学級から支援学級に行くときの「行ってきます」の挨拶のときに、「昨日食べた物のこと」を話すようになった。毎日短い話ではあったが、自信をつけることができた。このことがきっかけになって、交流学級で他の子たちも「私たちもスピーチがしたい。」と希望し、毎日の帰りの会でのスピーチ活動につながっていった。

### ・支援学級での学習について

昨年度末の読み書き・構音の調査から、「音素の脱落は構音の問題であり、音韻の脱落は言語発達の問題である。」ことが明らかになった。このため、単音および単語を、正確に聞き取ることができる。モーラ数を認識することができる取り組みを行う。聞き取った音を正確に書くことができる。などを目標として、絵カードや「平仮名ボードしゃべる50音表」などを使用し、読み書きの基礎力を付ける取り組みを行った。



上記の取り組みを通して、以前は小さい声、早口で話すことが多かったが、交流学級のみみんなに聞こえる大きさの声でゆっくりと話ができるようになった。また、発表後の交流学級の子の質問にも、答えることができるようになった。日常的な会話は支援学級では増え、内容も楽しみにしている活動や放課後の活動のことなど増えてきた。交流学級では、よく声をかけてくれる友だちには、自分のことを話すことが少しずつ増えてきている。

### ②を通じての対象児の変化

それまで、1人で下校する経験がなかったため、年度当初は1人で下校する距離を500m程度(全体の約6分の1)として今回の下校練習の取り組みを始めた。

本年度は登下校距離の半分(約1.5km)を1人で安全に下校することを目的とした。7月上旬に担任と2人で家まで



の通学路をどこに気をつけ、どのように横断したらよいかを話しながら、下校した。その際に、実際に自分の目線からタブレットで横断歩道や踏切、信号を撮影した。

その写真を「通学路マップ」にはり、注意することや安全確認の方法などを書きこんだ。また、信号のない横断歩道では、その様子を動画で撮影し、「自動車が来ていなければ渡る。自動車が見えたら渡らない。」という判断が自分でできるように、教室で確認した。また担任と一緒に現場で実際に判断する練習を行った。

取り組み以前は、信号や横断歩道を他の児童が渡ったら、一緒に渡るということが多かったが、横断歩道や踏切、信号などを渡るときに、「他の子が渡るから、自分も渡るのではなく、自分で信号や車の位置を確認する。」「実際にどこを見て、安全確認をするのかを確かめる。」ことなどができるようになった。

安全確認を行いながら週に1・2回程度、下校練習をすることができ、この経験からAさんは「駅(およその中間地点)までは一人で帰れる。」と自信を持つことができた。

3学期から「駅」までの通学路が大幅に変更になった。このため新しい通学路での注意点を再度「通学路マップ」に書き入れたり、写真を撮ったりした。それを元に、担任が付き添った下校練習を何回か行った。これまでの通学路での下校練習で、自信を持つことができていたため、新しい通学路の横断歩道でも安全確認を確実に行って1人で横断できるようになった。Aさん本人が、新しい通学路でも下校に自信を持つことができ、担任による見守りの距離は以前の通学路の時よりも少なくなった。



## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

「PowerPoint」で提示したものや、「カメラ日記」などで作成したものを事前に準備しておく、いつもより「伝わりやすい」ことがAさんも、交流学級のともだちも実感することができた。このことによりAさんの「自信」と交流学級のともだちからの「共感」が生まれたといえる。

Aさんが自分で作った「登下校マップ」を使って注意しなければならない場所を確かめたり、写真や動画でどのタイミングで渡るとより安全なのかを知ったりすることができた。実際に下校練習するときも、そのことを思い出して気をつけることができた。

また、3学期から通学路が変更になっても、安全に通学路を歩くスキルが身に付いたため、新しい通学路でも安全に気をつけて登下校することができた。担任が付き添わなくても下校できるという「自信」が持てるようになった。

### ・エビデンス(具体的数値など)

今回の取り組み以前は、話すことや日記の内容が「昨日食べたものこと」がほとんどであったが、「放課後デイサービスでの出来事」「スイミングでがんばったこと」など、内容が豊かなものになった。

また、それまでに経験したことだけでなく、これから予定されている「楽しみにしている行事や活動」についても話すことが増えてきた。家庭でも、学校であったことをうれしそうに話すことが増えてきたとのことである。

信号機の確認や車の確認が1人でも正確にできるようになり、登下校に対する自信を持つことができた。このため、Aさん1人で下校できる距離は取り組み当初の約500mから約900m(全体の約3分の1)と約倍の距離になった。3学期から通学路が大幅に変更になり、新しい通学路での登下校練習を行った。新しい通学路でも、学校からおよその中間地点の駅まで(約1000m)を1人で下校できるようになった。また、実際に信号や横断歩道を渡るときの判

断もより確実なものになった。

### 1人で下校できる距離の変化

2015年3月 0m(取り組み以前)  
4月 約500m(横断歩道横断の確認・支援あり・踏切1か所)  
11月 約900m(確認支援なし・信号あり横断歩道、信号なし横断歩道、踏切2か所)  
2016年1月8日 0m(通学路変更のため、付き添い再開。横断歩道横断の安全確認・支援あり)。  
1月下旬～ 約1000m(確認支援なし・信号無し横断歩道2か所・十字路1か所)

### ・その他エピソード(画像などを含めて)

「平仮名ボードしゃべる50音表」を国語の時間に毎回数分程度使用することで、それまで正確な聞き取りが難しかった、「か」と「た」、「ら」と「だ」、「み」と「り」などの聞き間違いや書き間違いの回数が半分以下になった。

また、「えのぐ」を「えぐ」、「えんぴつ」を「えびつ」、「けいと」が「けと」になるなどの文字の脱落も減ってきた。これは、アプリの読み上げ機能で文字や単語が「音」で確認できるためであると考えられる。



ひとりでいちごうかんに  
やさしいジュースを かいに  
いきました。

「カメラ絵日記」で作成した日記を、交流学級に掲示することにより、たくさんの友だちからの「Aさんすごいねえ、がんばっているね」という「称賛」を得ることができた。また、Aさんの家庭での様子やできること、がんばっていることなどを知ることによって、交流学級の子もたちとの関係もより親密なものになった。このことが本人の「意欲」や「自信」に更につながっていった。

